



海外協力隊で派遣教諭が 市長を表敬訪問

(7月11日)

東小学校教諭の永倉一将さんがJICA海外協力隊として派遣されるため、市長に報告に訪れました。派遣期間は、7月24日(水)から1年9カ月。赴任先は、南太平洋のバヌアツ共和国です。教育体制を構築中のバヌアツの未来の発展のために、決意を新たにしています。

生徒と地域住民が率直な意見交換 (7月12日)

社会へ出て行くための経験を深めるため、県立裾野高等学校でトークフォークダンスが開催されました。さまざまな世代の大人と対話することで、地域と触れ合うことを目的としています。大半が初めて会う人同士ですが、自分の考えや経験談などを話している内に、自然と笑顔があふれていました。



富士山に関わる文学展

(7月13日)

富士山資料館で「富士山と万葉集を中心とした文学」と題した特別展が始まりました。万葉の時代に生きた人々が富士山に何を感じ、何を表現したのかが紹介されています。展示では新元号の令和の名称が、万葉集巻5「梅花の宴」の序文から引用されていることも分かります。この特別展は12月1日(日)まで開催しています。

特派員：鈴木 敬盛

黄花コスモスの種まきイベント (7月13日)

黄花コスモスの種まきイベントが、パノラマ遊花の里で行われました。このイベントは今年で10年目を迎え、パノラマロードを花でいっぱいにする会の会員や市民ら約110人が参加しました。三角ホーと呼ばれる先のとがったくわのような道具を使い、1.2メートル間隔でコスモスの種をまきました。

特派員：渡邊 英機





プロ選手との交流で五輪機運醸成 (7月22日)

富士山チャレンジライド2019in御殿場・裾野が行われました。海外選手や国内のトッププロ選手などが裾野市と御殿場市のオリンピック自転車競技ロードレースコースを走行しました。須山地区研修センターではプロのサイクルロードレースチーム「チーム右京」の3選手などと市民の交流会が行われました。

特派員：杉本 武満

オリンピック仕様の看板設置 (7月24日)

東京2020オリンピック競技大会の開催まで、あと1年となりました。市では、大会前1年を記念して、自転車競技ロードレースコース沿いの須山地区の2カ所と運動公園管理棟付近に看板を整備しました。これらの看板は、裾野市のレガシーとして、オリンピック開催後も継続設置していきます。



市内小・中学生の裾野についての勉強会 (8月1日)

裾野市を学習する日が市役所で開催されました。市内の小・中学生が裾野市に関する質問をし、市の担当者が答えることで、市について理解を深めてもらうのが狙いです。市内の観光や産業、特に今年は、オリンピックに関心を持つ生徒が多く、たくさんの質問が飛んでいました。参加した生徒は、熱心にメモを取っていました。

深良川クリーンアップ作戦を実施 (8月3日)

上須区と深良新田区の区民や有志の人々が集まり、深良川の護岸などの雑草の除去を行いました。

第三発電所から黄瀬川合流口までの約900メートルの河川に入り、草刈り機を使って背丈ほどの雑草を刈り、下流で待機する人たちが流れてきた雑草を側道に上げ、深良川と周囲をきれいにしました。

特派員：小林 建次

